

【経営体B】

効率的な土地利用と環境に配慮した営農⇒経営規模の拡大と生産性の向上を実現

- ◇実需者の要請に応えるため平成30年度に入植し、大区画農地で環境保全型農業に取り組むとともに、雇用による効率的な営農により、**経営規模の拡大と生産性の向上**を実現
- ◇作付作物のローテーションで連作障害を回避し、ほ場利用率を高めることで**売上額が増加**
- ◇地域の生産者と共同出荷団体を組織し、JGAP団体認証取得による**出荷先の安定化**

特徴的な取組

内容

効率的な土地利用

ほ場利用率を高めて売上増加

レタス、たまねぎ、キャベツの生産ほ場をローテーションすることで、連作障害を回避し、大規模で集約化されたほ場の利用率を高めることで、売上額の大幅な増加を実現。

環境に配慮した営農

土づくりによる減肥生産

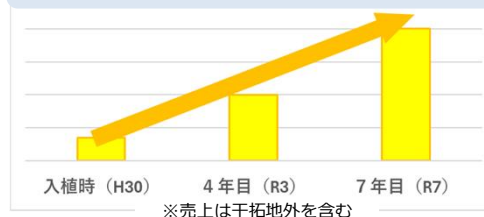
入植を契機に環境保全型農業に取り組み、IPMを実践。干拓地内の畜産農家から堆肥を仕入れ、土づくりによる減肥生産を実現。

JGAP団体認証取得

出荷先の安定化

地域の生産者と共同出荷団体を組織し、実需者ニーズに対応したJGAP団体認証を取得。GAP取得による出荷先の安定化とデータに基づく栽培管理による新たな経営への転換。

入植後に売上額が約6倍



「IPM」(総合的病害虫・雑草管理)とは？

利用可能なすべての防除技術(農薬も含む)の経済性を考慮しつつ、総合的に講じることで、病害虫・雑草の発生を抑える営農技術。



JGAP認証を明記した出荷資材



リーフレタスの作付状況

今後の方針

- かん水施設がある干拓農地で規模拡大を目指す。
- 単棟ハウスの導入による収量の安定と品質確保、更なる実需者の信頼向上を目指し、新たな野菜品目の生産にもチャレンジ。

経営の概要(令和7年10月時点)

- 経営面積 21.1ha(干拓地内15.1ha)
- 基幹作物(干拓地内)
露地:レタス、たまねぎ、キャベツ
- 雇用者数:15名(通年、技能実習生含む)



※写真出典:長崎県提供